

松葉屋通信



「山と森、木とひとびとの暮らし」を一本の糸でつなげたい

巨木に会いに行きました



ありえないほど古くて大きい
巨木に会いに行くことにしました。

樹齢数1000年を数える古木
胴回りが数メートルを超える巨木

畏敬の念を抱くほど、
この地に長く生きてきたことが
どれだけ希少なことがか。

たとえば、500年前という戦国時代
この地では、川中島の合戦があった頃。
発芽して、
それからずっとその地を見守ってきた木。

日本の、身近な山に
このような存在があるとは
にわかには信じられない、
正直な気持ちです。

今の日本をこの木たちは
どう見ているのか。

言葉には出さないけど
木の肌を触れ

一瞬、時を共にすることで
木の想いを感じてみたいと思いました。

妻科 井上醸造さんの
榎

ケヤキ



DATA

所在地：長野市妻科
推定樹齢：500年
胸高直径：6.8m
樹高：48m

松葉屋から西へ1キロ少し。妻科神社をさらに西に「旭山」に向かうとすぐ見えてきます。井上醸造は老舗の味噌屋さん。実は昔から知り合いで、滝澤家は毎日井上さんの味噌汁を飲んでいきます。松葉屋のテーブルや椅子も使っていたらいいのに、この榎のこと、知りませんでした。

推定樹令、500年。大きく育って、母屋の屋根を押し込んでいます。井上さん曰く、本当は山の木のように、落ち葉が腐葉土になり、ふつくらとした土にしてあげたいが、町中なので根元の上を車が通る。この榎を家族の一員のように気遣う井上さんは、せめてと2年に一度、樹医さんに診てもらい枝払いをしているそうです。生まれた時から家の敷地にあり、見守ら



松葉屋からほど近い長野市内の住宅街に突然現れる大きなケヤキ。国産大豆にこだわった味噌を丁寧に作る井上醸造さんの庭先にあります。代々お家の方が守られているケヤキです。

れ、共に育ってきた家族の木。フクロウや珍しい鳥も飛んできて、翼を休め鳴いている。玉虫もやってくるのか。人も鳥も虫たちも、引き寄せられる榎の大樹。落ち葉を集めて焚き火をした昔懐かしい風景と共にいつまでもずっと残ってほしい、と願っています。

虫川の大杉

積雪3mを超える豪雪の十日町をすぎ、上越市に向かう途中ほくほく線の高架の真横にありました。国道から看板が出ているので行きやすいと思います。

鳥肌たつ怖いほどの巨大さ。北越急行（ほくほく線）の駅が開業に際し、近くの駅名が「虫川大杉」と名付けられたそうです。地元の人たちにとって杉がどれほど大きな存在だったのかわかりますね。

昭和12年には、文部省（現文部科学省）によって、国の天然記念物に指定された全国でも有数の巨木ということ。推定樹齢が1200年ということは、平安時代からこの地を見てきたというわけですね。



この大杉は、白山神社の神木として土地の人々が古くから大切に保護してきたものです。幹の西側地上約6mのところ、大きな穴が開いていますが、これは安政年間（約120年前）の大雪でい大枝が折れたため生じたものといわれています。

DATA

所在地：上越市浦川原区虫川1429
推定樹齢：千年以上
胸高直径：10.6m
樹高：30m

戸隠豊岡の桂

カツラ

旧戸隠役場の近く、と聞いていたのですが、すぐ分かるかなと思っていたのですが、やや迷いながら民家の庭に立つ大桂に行き着きました。

念のため民家のご主人にお断りして、近くに寄らせてもらいます。主幹から何本も株分けされ(株立ちというらしい)独特の樹形を見せています。裏に回るとまったく表情が違って迫力があります。初夏にはハート型の葉が茂り、独特な甘い香りです。

そういえば善光寺の本堂も総桂づくり、また、松葉屋の前の街路樹も桂でしたね。

高山村黒部のエドヒガン桜



DATA

所在地：長野県高山村
 推定樹齢：500年
 胸高直径：6.8m
 樹高：13m

江戸時代の初期延宝年間(1663-1672)の村絵図にすでに大樹として描かれているので中世は戦国時代に植えられた可能性があります。

木の下に十二宮跡の石碑が立ち、往古黒部の穀倉地帯であったこの地に、山の神、水の神、農業の神として祀られ、その時神の依り代として植えられた記念樹。



親鸞聖人が、建暦2年(1222年)戸隠参詣の際、荒倉山に昇り、鬼女紅葉遺跡を見聞した帰途に杖として使った桂の木を植えたものと言われています。葉を香にたくと上品な香りを漂わし「お香の木」とも呼ばれています。

DATA

所在地：長野市戸隠豊岡
 推定樹齢：800年
 胸高直径：10.7m
 樹高：30m



高山村は長野市善光寺平の東に位置します。人口7000人ほどの美しい山里です。くだものが美味しくて、温泉も有名です。村には約20本以上のしだれ桜があり、各々に名前が付いています。その内半数が樹齢200年を越す大樹。最近「しだれ桜の里」として脚光を浴びているそうですよ。今回はその一本、黒部のエドヒガン桜を訪ねました。

春には満開の花を楽しめるのでしよう。こんな雪深い日に会いに行くなんて、変人だよ。除雪も途中までしかされず、今年は少ないとはいえ膝上までの雪をかき分けていきます。息が切れました。開花は4月20日過ぎ。ぜひ再度お邪魔したいと思います。

『木の身体測定をしました』

今回のような巨木たちの樹齢は伝承であったり、推定であるものが多く、生きた樹の正確な樹齢を知る事はとても難しいことです。

昨年秋に開催した森へいくツアーで、戸隠ブナの木の高さや胸高直径を調べました。

戸隠で測ったブナの木は

樹高は 19.8m

胸高直径が 36.5cm

そこから計算式を使って算出された

推定樹齢はなんと **125歳**

戸隠の寒く雪の多い厳しい環境では、生育が遅く、30cmの直径でも樹齢は100歳を超える長老です。この計算式は、地域や標高、樹種によっても異なるため、あくまで「目安」とのことです。



その他の樹齢の調べ方

【枝や節を数える方法】

1年ずつ規則正しく分枝成長する性質を利用して、枝や節を数えて樹齢を測ります。アカマツやクロマツはとて分かり易いそうです。低い枝は成長段階で折れて幹に取り込まれてしまう事があるので年数は分からない事が多いそうです。

【年輪のコアを抜く方法】

成長錐という道具で木の一部分を抜き取る方法。

採取にはとても手間がかかる上、木に傷を付けるので、病気にかかってしまう恐れもあります。同じ種類でも生えている環境、光の当たり方などで成長の仕方にはばらつきが出るので、個々の木を調べるといより、森林全体の樹齢構成を調べる場合などに使われます。

いずれにしても、私たちが何気なく加工している木材が途方もなく長い年月の中で生育した結果である事を知ることができました。

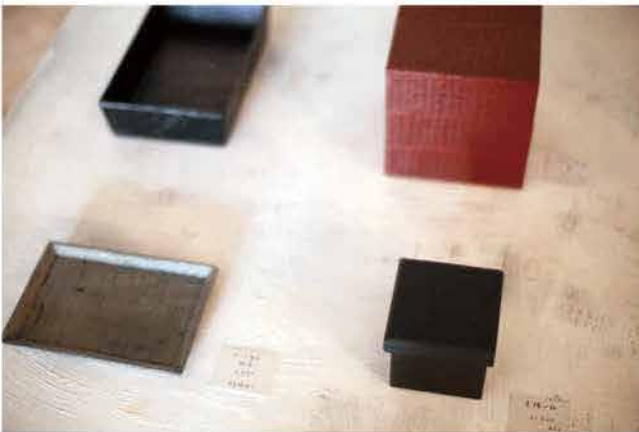
木とうるしの道具

家の周りの山の木を切り、形をきめて轆轤を挽く、彫りこむ、うるしをぬる。という昔のあたりまえを形にしている飯塚直人さん。松葉屋の周りの山の木で、家具をつくることをはじめた松葉屋にとって、そのスタイルはピタリと一致。これから季節ごとに、美しい和名の色とヨーロッパや日本の古く美しい稀な形を、写していただく予定です。日頃気兼ねなく使える、一つでいろいろに使える定番シリーズを少しずつ。どうぞお楽しみに。



あたらしい年は、暮らしの無駄をへらす。ご近所の「豆腐さん」に和菓子を買いにいくときに、うるしの小箱に詰めてもらってもち帰る。昔のお豆腐屋に小鍋をもっていくような道具がほしくて、暮らしの無駄がへるように、飯塚さんにつかっていただいたもの。

フランスの古い器を写した定番のリム皿は、軽くて料理映えるので、毎日使ううちに、艶と味わいができました。ほかの器は出番がないので片付けたら、食器棚がすっきりとしました。定番の色は利休茶と亜麻色。



1月にあった「木とうるしの道具」の展示風景。飯塚さんの新作も並びました。うるしの器は音がいい。重ねたときに「カタリ、コトリ」とやさしくたてる。洗ったり拭くときの、手になじむ感じと軽さ。中間色なら大雑把な手入れも味わいに。ぬり直しもできるし、かけたうるしや金で継ぐとまた素敵。うるしの器は毎日使ってこそ、です。

松葉屋通信 VOL.34



発行所：
松葉屋家具店+くらし道具学研究所
〒380-0841 長野市大門町 45

TEL : 026-232-2346

FAX : 026-237-4558

Email : since1833@matubaya-kagu.com

定休日：水曜

発行日 2016年2月11日

松葉屋から香りの贈り物

今回たなごころさんをお願いしたのは
「春をまつ香り」ヒノキの木、枝葉、葉、ニオイコブシ

昔から湿気に強いヒノキは神社や仏閣などの建材として利用されてきました。香りは成分的にもリラックス効果が

高く、森林浴と同じような効果をもたらすと言われてます。スッとまっすぐ成長するヒノキのように私達にもまっすぐ夢にむかったり、問題に立ち向かったり、成長するパワーをくれる香りとも言われています。そこに北国の春を象徴するモクレン科コブシの一種であるニオイコブシのすっきりしたフローラルな甘味が春の訪れへと導いてくれるような気がします。深い森の中で深呼吸をするように香りを味わっていただき、冬の寒さで硬くなった心身を解放し、皆さまが元気に清々しく春を迎えられますようにと願いを込めて…



ヒノキ



ニオイコブシ

アロマトリートメントルーム たなごころより 080-1437-6065